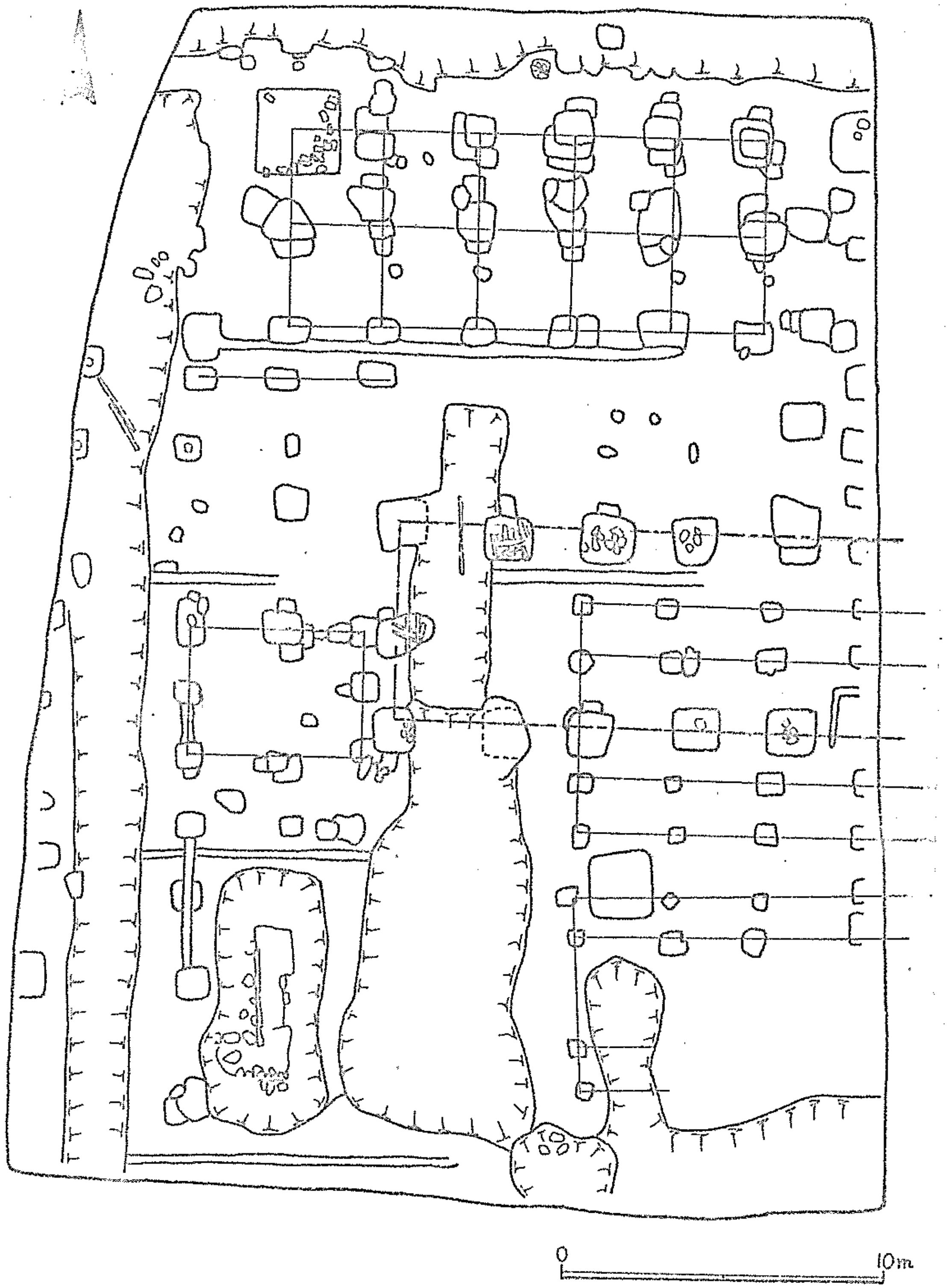
阿彌陀浄土院跡発掘遺構略図

1972.11.6～



法華寺阿弥陀浄土院年表

天平宝字三年(七五九)五月　この頃 法華寺の西南隅に阿弥陀浄土院の造営を始む。

四年(七六〇)十二月　この頃 造営終了、

五年(七六一)六月　阿弥陀浄土院において 光明皇太后の一周忌斎を行う。また 毎年の忌日斎会の料として、京南の田十町を法華寺に施入す。

八年(七六四)～宝亀元年(七七〇)　この頃 文室真人浄三、法華寺大鎮浄土院別当として在任。

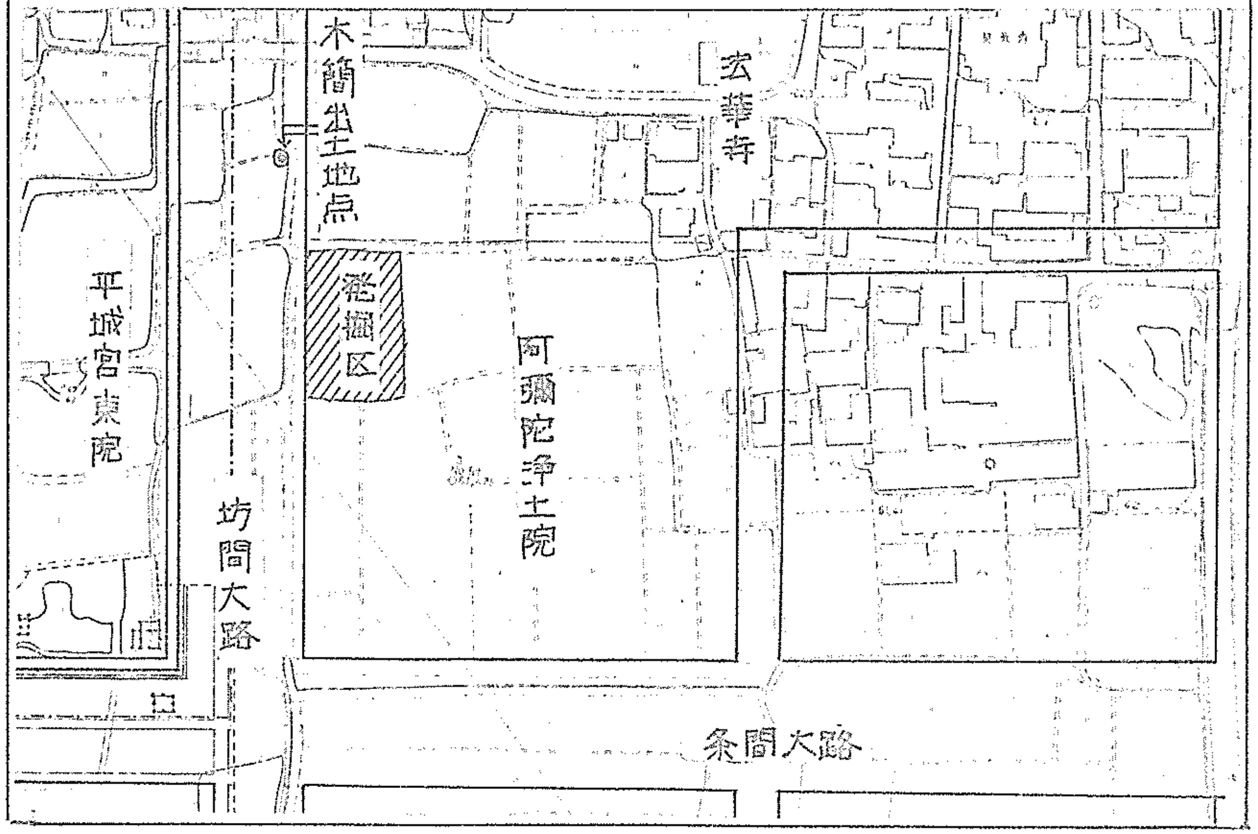
延暦二十年(八〇二)　僧護命 法華寺浄土院において 涅槃経を講じ 菩薩戒を授く。

鎌倉中期(十三世紀半ば)　「法華滅罪寺縁起」に、この頃 浄土院が完全に廃絶しており、本尊以下の仏像は 法華寺講堂に安置されていった旨を記す。

浄土院発掘用電線工事に伴う出土木簡

(表)「坤宮官 縫殿 出米参斗 □(右Ⅱ) 薪貫 」

(裏)「遣如件　五月廿八日 舎人池後小東人」

(6011型式)

〈備考〉 坤宮官は紫微中台の改称、天平宝字二～五年に存在した。